

## 1979 年を思い起こす

ことし 2019 年から 40 年前、1979 年になんだか思いを馳せる。大阪市立大の大学院「オーバードクター」で、就職が決まらず焦っていた。1 月下旬に、やっと「内定」の連絡をもらい、泣いて？喜んだものだ。名古屋市立女子短大（市短）に就職して、女子大生を前にして初めて教壇に立った。「キンチョー」の 4 月だった。手持ちの写真（「秘蔵」も含めて）から、懐かしき「市短」時代を振り返りたい。



市短は「名古屋ドーム」近く北千種にあり、現在は名古屋市大芸術工学部のキャンパスになっている。コンパクトなキャンパスであり、4 階に研究室があった。研究室は広かったが、すぐに本や資料で一杯になった。懐かしの研究室である。3 枚目は 3 階の「大教室」。講堂ができるまで、ここで入学式・卒業式を実施していたと思う。



4 枚目は若き日の私。髪が黒く、ふさふさしていた。4 枚目ではなく、「2 枚目」にしておくべきだった。学生会館横の桜は市短名物であり、毎年「お花見の会」をやっていた。6 枚目はキャンパスの芝生で、のんびり煙草を吸っている私。なんと当時は煙草をふかしていた。禁煙してかなり経つが、迷惑をかけていたものだ。後ろに見えるのが体育館。ここで教職員も参加して行なった「球技大会」などを思い出す。縄跳びの写真に、私が縄に足を引っ掛けている「証拠」が残っている。



体育館で思い出すのが、なんと私がバスケットボール部「顧問」をしていたことだ。教員の多くがクラブ活動の「顧問」をつとめることになっており、確か前任者の関係で、こうなったと思う。バスケットボールなんて、ルールもあまり知らなかった。学生に教えてもらいながら、たまに練習に顔を出した。中部の公立短大の競技会（中部公短戦）があり、三重県・山梨県などに「遠征」に出かけたこともある。



最後の写真は卒業パーティで「熱唱」する私。こうした宴会では、いつもお呼びがかかるようになった。当時「寅さん」が人気であり、「私生まれも育ちも」と歌ったものだ。楽しき若き時代の一コマである。



こうして、市短時代を回顧するのは、あれから 40 年という時の流れとともに、最近「悲しき知らせ」をもらったからだ。

(2019 年 1 月 21 日)